

第56回症例検討会 case77

「新型コロナ後遺症諸症状に対する鍼灸治療の1症例 続篇」

前回発表2025年10月6日

2026年5月11日(月)20:00～

清明院 永井由梨 竹下有

続篇発表理由

- 本症例では症状だけでなく生活状況、家族関係においても良好の変化がみられ、東西両医学の併用、協調の意義を再認識した症例となったため。
- 歩行動画の撮影を行うなど、前回の反省を生かすことができた症例であり、客観的にも治療経過が把握しやすくなったため。

【患者情報①】

患者：50代女性 154cm 54kg BMI 22.77

主訴：top不眠、胃酸逆流、全身倦怠感

医師の診断名：コロナ後遺症

ADL：屋内では伝い歩き、外出時は車いす。

初診日：X年8月

【患者情報②】

【家族歴】 父、姉：糖尿病、母：慢性疲労症候群

【既往症】

- ・ 17歳頃:円形脱毛症
- ・ 24歳:ストレス性胃炎
- ・ 45歳:更年期障害(ホットフラッシュ、煩悶感、漠然とした不安)
- ・ **53歳:新型コロナウイルス感染症**
(※ワクチン歴：3回全てモデルナ社、X-1年6月7月、X年2月。
3回とも副反応あり、発熱38°C、悪心、倦怠感)
- ・ 53歳:上咽頭炎、逆流性食道炎
- ・ 54歳:帯状疱疹、右眼飛蚊症

【患者情報③】

【**出産歴**】 2回 27歳**吸引分娩**にて男児出産、31歳時**帝王切開**にて男児出産。産後の体調良好。

【**医療機関**】 2か月に一度、コロナ後遺症外来のオンライン診療受診。

【**内服薬**】 服薬情報参照

【**サプリ類**】 アミノバイタルアクティブファイン

初診時には1～3回/日、症状改善に伴い現在はほぼ服用なし。

倦怠感に対して服用、効果あり。

かかりつけ病院のHPで知り購入。

引用：『アミノバイタルアクティブファイン』味の素株式会社
『新型コロナ感染症・後遺症の記事』ヒラハタクリニック



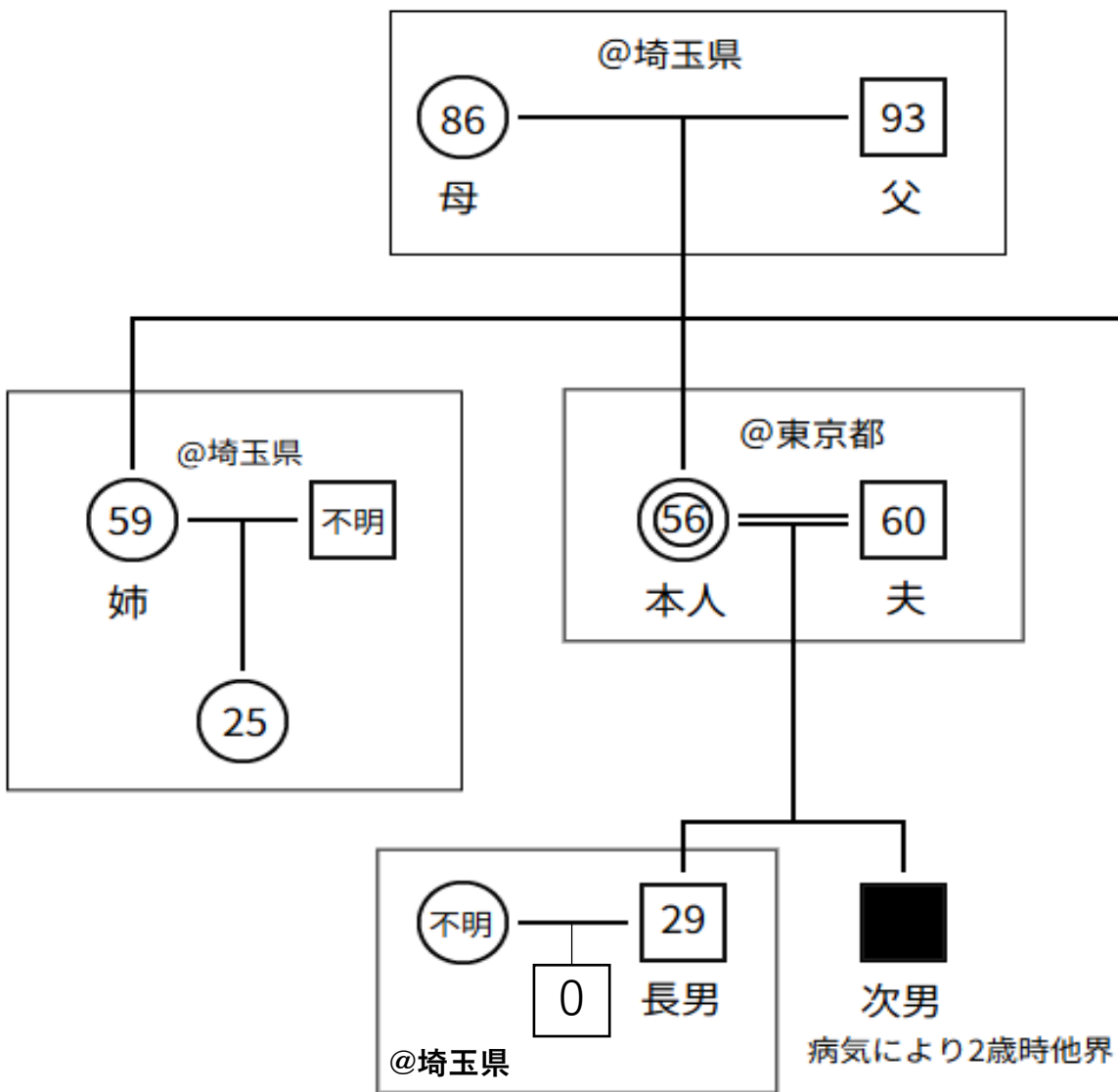
【服薬情報】

薬剤名	目的	初診時	初診時服薬効果	治療介入後現在	治療介入後現在の状態
リーゼ錠 5mg	不眠	1日1回1/4錠	服用前：週2～3回は 1日一睡もできない日あり 服用後： 毎日1～2時間睡眠可能	2～3日に1回1/4錠	イライラ、頭の 熱さ、のぼせ感で 目覚める頻度減少
ザジテンカプセル 1mg	不眠	1日1回1錠	リーゼ錠同様	1日1回半錠～1錠	寝付きにかかる時間 30分、中途覚醒 2～3回 3～4時間睡眠可能 熟睡感あり
ミヤBM錠	便秘	1日1～2回2錠	服用前：排便1回/2～3日 服用後：排便1～3回/日	1日1回2錠	排便1回/日

【生活歴①】

飲食習慣	3食/日、偏りなし。炭水化物は少なめ。朝・昼は宅配弁当、夜は総菜または夫が調理。 間食はクラッカー、クッキー、カロリーメイト、のど飴。 食事は1,400kcal/日に調整している。 水分摂取量は約800mL/日、ノンカフェインのお茶（ごぼう茶、ルイボスティー、黒豆茶など）
間食	20代～甘味(ケーキ、チョコレートなどの洋菓子)とコーヒー(ホット、ブラック、砂糖ミルク無し500～600ml)で気分が落ち着くため毎日摂取。 <u>コロナ感染～主訴悪化のためほぼ無し。</u>
アルコール	飲酒習慣なし。
運動習慣	<u>幼少期より運動嫌いで運動習慣なし。</u> 学生時代の部活動は合唱部、帰宅部。

【ジェノグラム】



生活環境
夫と2人暮らし。
一人息子はX年8月に結婚し埼玉在住
X+1年4月初孫誕生。
夫、息子夫婦との関係は良好。姉、妹とは疎遠気味。

- 両親、妹、姉、長男夫婦は埼玉在住
- 両親は健康で介護不要
- 次男は出生時、二分脊椎症、水頭症と診断
2歳時、痙攣発作で死亡

【現病歴①】

〈幼少～主訴発症前まで〉

神経質で完璧主義、イライラしやすく、考え事が多い。
くよくよ引きずりやすいタイプ。

勉強、仕事など過集中しやすく、その日にやり遂げないと
気が済まない。

偏食なし、緊張で便秘傾向、睡眠問題なし。

【現病歴②】

〈27歳〉 不眠発症 vas2-3

第一子妊娠中、妊娠7週目～悪阻がきつく1日中、常に悪心。
食後に嘔吐すると楽になっていた。
悪心により入眠困難。30分～1時間で寝付く。熟睡感無し。
当時不眠に対して治療無し。

体重は出産までに徐々に4-5kg減、52kg→47kg

出産後もvas不変、体重は徐々に戻る。
産後は子供の夜泣きで中途覚醒し、細切れの睡眠。

【現病歴③】

〈45歳〉 vas5

息子が高校生になり週2-3回事務職のパート勤務を開始。

5時間程度のデスクワーク業務による眼精疲労あり。

仕事後ホッと、帰宅後必ずブラックコーヒー+洋菓子を摂取するようになる。

ある日突然、

ホットフラッシュ、煩悶感、漠然とした不安、心配が出現。

不眠症状も悪化し婦人科を受診する。更年期障害と診断される。

【現病歴④】

〈45歳〉

◆更年期障害時の治療内容

(1)漢方薬(当帰芍薬散)を2-3週間服用、胃痛出現により服用中止。

(2)ホルモン補充療法(メノエイドコンビパッチ)へ切り替わる。

2週間後に腹張が認められ不安感が増強し中止。

(3)低用量ピル(内容不明)へ変更。

服用2-3週間後、落ち込み、悪心が出現したため中止。

👉この頃には更年期症状が軽減し、医師より治療不要なレベルとの判断のもと治療終了。

更年期障害治療により不眠症状はvas5→2-3へ軽減。

【現病歴⑤】

〈51歳〉 vas2-3

閉経。

閉経後1-2年は条件不明だが、時折**ホットフラッシュ**を感じていた気がする。

不眠症状については閉経前、**更年期障害時は毎日不安感、焦燥感により、1時間寝付けない、盗汗で中途覚醒し、熟睡感なし。**

更年期障害治療により不眠症状は週1-2回程度に軽減。

閉経後不眠症状、身体症状、生活状況に大きな変化なく、
閉経の影響は受けていない。

【現病歴⑥】

〈53歳〉 X-3年8月初旬 vas6

新型コロナウイルス感染症陽性

夫が先に罹患し数日後、症状出現。

悪寒、喉痛、発熱(37°C)、倦怠感、ブレインフォグ、息苦しさ、抑うつ、入眠困難。

罹患当時は身体症状がきつく1-2時間寝付けない。

症状は様々あるが、家事などの活動はできていたため軽症だと感じていた。

カロナル、トランサミン、小青竜湯で症状緩解。(服用量不明)

喉痛、喉の違和感、倦怠感が残る。

【現病歴⑦】

〈53歳〉 X-3年8月～9月 vas6-7

自宅隔離終了後、3週間ぶりに仕事復帰。

気晴らしになるが肉体疲労↑倦怠感↑

入眠困難、中途覚醒、覚醒時動悸、多夢。

数日勤務後ベッドから起き上がれず1日ほぼ寝たきり状態になり、

パートを退職。歩行状態は屋内では伝い歩き、外出時車いすとなる。

食事はお粥、うどん、ゼリー。便秘気味。

倦怠感が酷く、ベッドから動けないためシャワー一週2回。

シャワー後の疲労感、火照り、息切れが強い。

【現病歴⑧】

〈53歳〉 X-3年10月 vas3-4

気候的に涼しくなり徐々に倦怠感、不眠症状が軽減。
生活状況、食事内容や量は8月頃コロナ感染時と同様。
精神的肉体的負荷がかかるような出来事も無し。

日中の活動時間が増え、外出可能になる。

シャワー毎日。シャワー後の疲労感、けだるさあり。
食事は宅配サービスを利用開始。軟便傾向。

上咽頭炎、逆流性食道炎を発症。

【現病歴⑨】

〈55歳〉 X-1年3月 vas10

父親から会社を継いでほしいと頼まれる。

現在の身体状況では厳しいため断り、父親が妹に頼むも拒否。

父親から再度頼まれ、継げない状況を説明するも一切理解

されず、父親、妹、姉と揉める。

父、妹、姉への罪悪感により不安感、焦燥感に苛まれる。

また父親、妹から毎日電話やラインが来ることに対し

怒りが募る。ADLも悪化し、X-3年9月同様の歩行状態となる。

【現病歴⑩】

イライラ、焦燥感、盗汗により中途覚醒4-5回/日。

動悸なし、夢は時々。

1度目覚めると上半身の火照りと頸肩背部の過緊張により、
眠れないため水風呂に浸かり、熱を冷ましてから眠るよう
になる。

それでも寝付くまで布団の中でじっとしてられないこともあり、寝室からリビングへ移動し、テレビを見たり家事をして眠くなるのを待つようになる。

【現病歴⑪】

〈55歳〉 X-1年10月 vas6-7

父親の会社は夫が引き継ぐことになり一段落したが、妹とは現在まで疎遠になる。

中途覚醒回数は波があり、多いと4-5回、少ないと2-3回。

覚醒時のイライラ、焦燥感、盗汗は徐々に改善した。

水風呂に浸かったり、夜中にテレビを見たり、家事をし始めたりすることもなくなる。

Xのオープンチャットで清明院を教えてもらった患者から清明院へ往診依頼メールが届く。

【初診時の東洋医学的情報】

飲食:スライド7参照

大便:2-3回/日、軟便、便器つかない、臭いあり、残便感無し。

小便:6-8回/日、淡黄色、尿勢・尿切やや悪い、残尿感なし、
夜間尿無し。

睡眠:8時間/日、熟睡感無し、寝つき寝起き悪く、寝付くまでに
1時間以上。夢は時々。

中途覚醒(1時間おきにイライラや火照りのため)

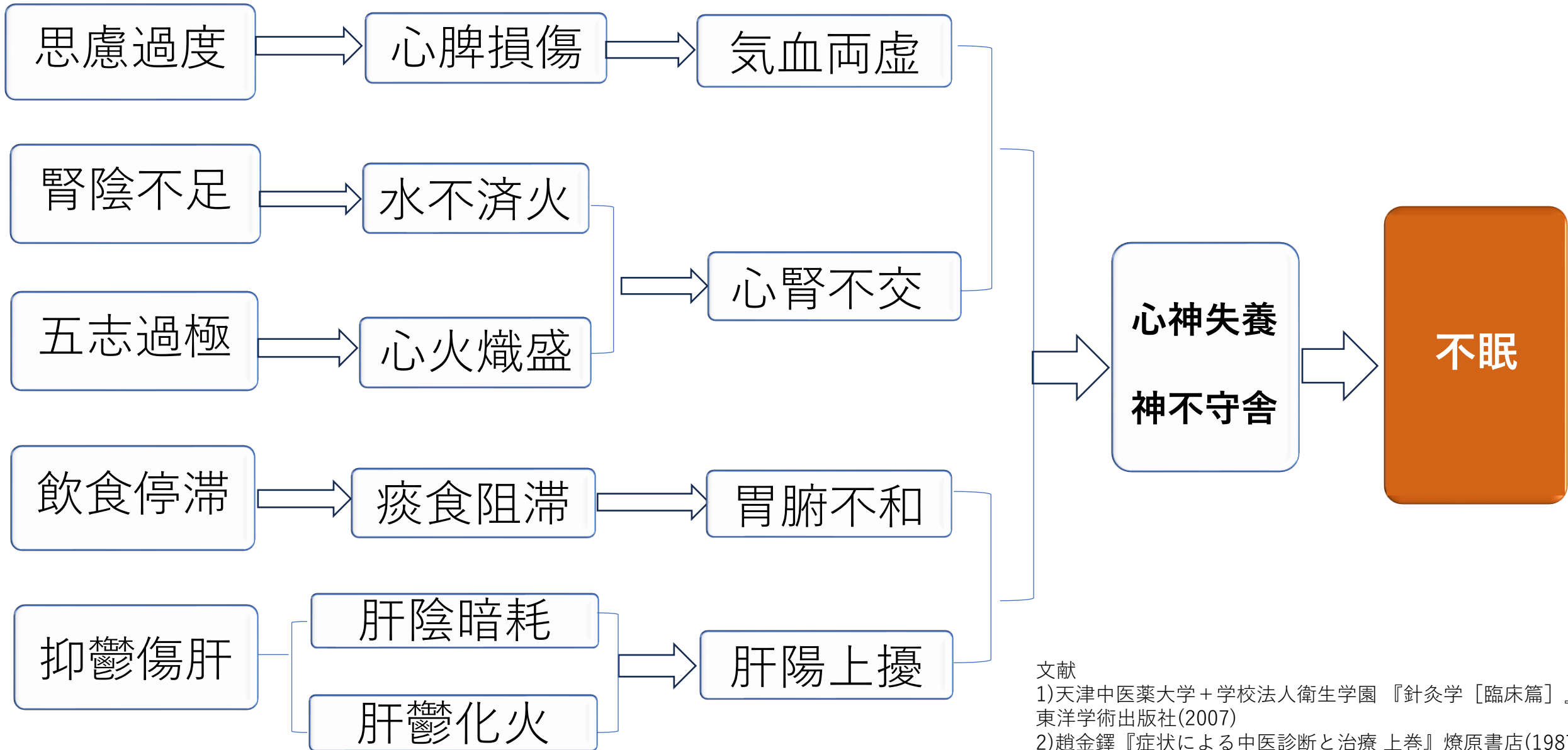
脈診:沈、滑、脈力・脈幅・重按有り

舌診:形:歯根舌、色:舌背、舌腹共に紅、舌苔:薄白苔

腹診:脇腹過緊張(右>左)、胸脇苦満(右>左)、左少腹急結

【不眠の東洋医学的見解】

不寝(不眠・失眠)とは常に睡眠が足りないこと。



文献

1)天津中医薬大学+学校法人衛生学園 『針灸学 [臨床篇]』
東洋学術出版社(2007)

2)趙金鐸『症状による中医診断と治療 上巻』燎原書店(1987)

【不眠の西洋医学的見解】

不眠症

睡眠を適切なタイミングと環境でとっているにも関わらず、夜間に入眠困難、睡眠維持困難、熟眠障害、早朝覚醒などの夜間不眠が存在し、不眠が過度の日中の眠気など日中の様々な機能障害をもたらすことにより、QOLの低下が生じている状態。

原因

①心理的

②身体的

③薬理的

④精神医学的

⑤生理学的

⑥原発性

治療法

①非薬物療法

②薬物療法

文献

- 1)米国睡眠医学会『睡眠障害国際分類第2版 診断とコードの手引』医学書院(2010)
- 2)古池保雄『基礎からの睡眠医学』名古屋大学出版会(2010)
- 3)大熊輝雄『改訂版やさしい睡眠障害の自己管理』医療ジャーナル社(2009)
- 4)内田直『好きになる睡眠医学第2版』講談社(2013)

【初診時の診断・配穴・養生指導】

弁証：肝鬱気滞・心気不暢＞腎虚

八綱弁証：裏・熱・実＞虚

流派：北辰会方式

初診時の配穴：左胃兪 瀉法 いっしん社製奇経鍼 3番分置鍼

養生指導：油膩物、甘味、カフェインを避ける。

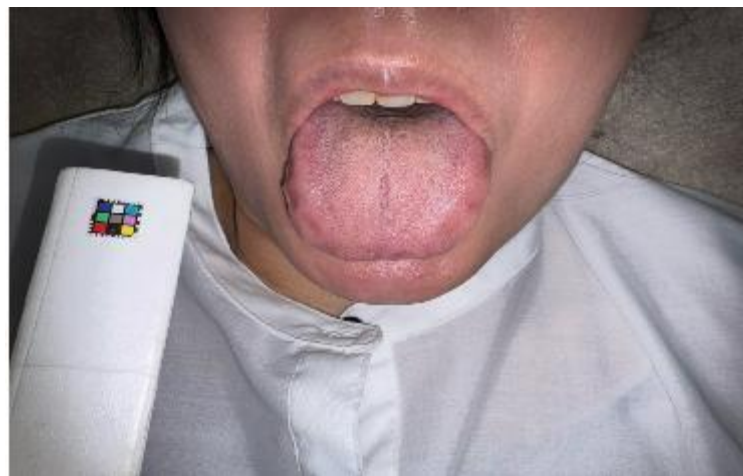
調子が良いときでも食べ過ぎない。

読書、動画鑑賞、スマホ操作、ストレッチを行う際は意識的に休憩時間を設け、過集中しすぎないように注意する。

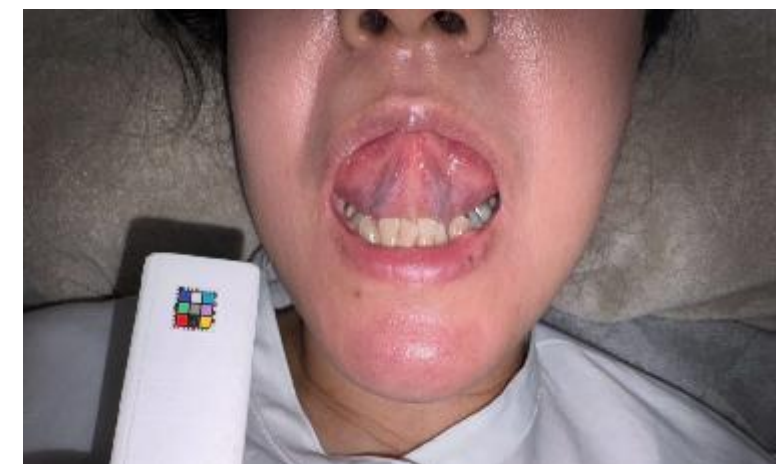
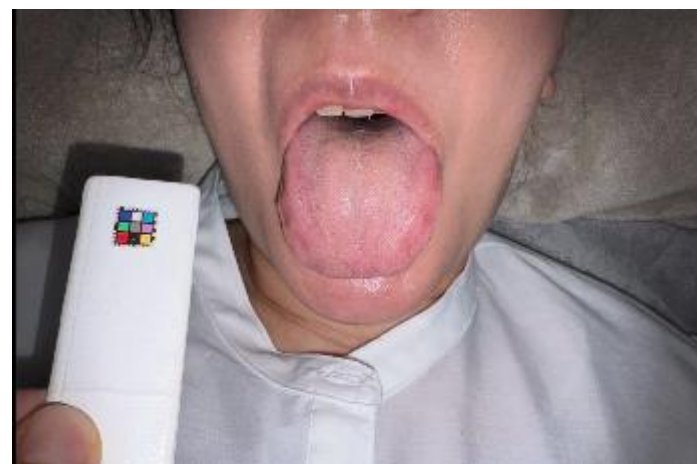
【X年8月初診時の治療前後の体表所見】

(初診時の配穴は左胃兪)

治療前

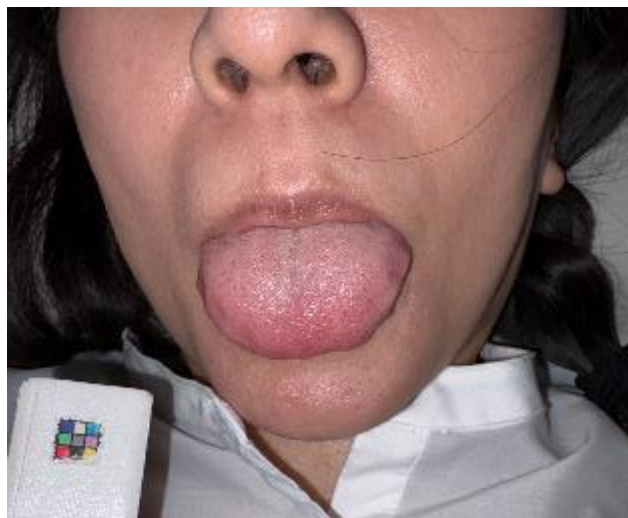


治療後

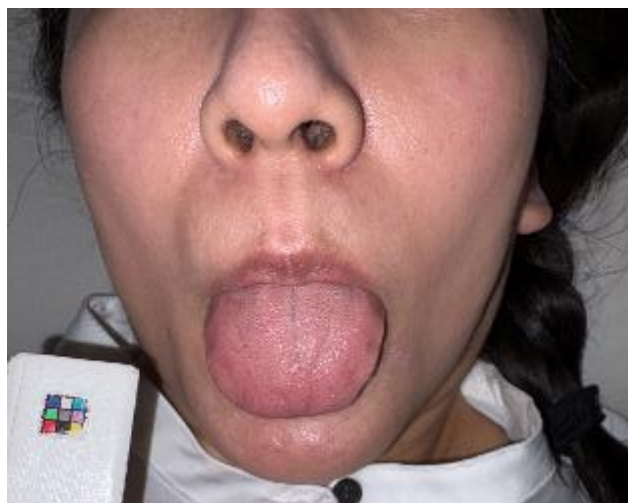


【X年+1年4月現在の治療前後の体表所見】

治療前



治療後



【経過中の主な治療内容】

流派：北辰会方式

配穴：胃兪、肝兪、照海、後溪、足臨泣など。

※状況に応じて瀉法中心に補瀉法を施す。

処置内容：鍼のみ、1回の治療で使用する経穴は1穴～2穴

得気：有

通電：無

頻度：週2回(永井他女性1名で担当)、治療時間は30分程度

【治療経過①】

(前回発表時点までの症状経過まとめ)

症状	治療介入前	10診目
入眠時間	約60～120分	約30分
中途覚醒回数	6-7回	3-4回
熟睡感	無し	あり
歩行状態	伝い歩き	自立
起床時の頸肩背部重さ	10段階中10	10段階中6
息切れ	10段階中10	10段階中1
胃酸逆流	10段階中10	10段階中2
悪心	10段階中10	10段階中2
咽の詰まり	10段階中10	10段階中1
尿勢・尿切れ	10段階中10	10段階中1

【治療経過②】

・ X年10月初旬 15診目

中途覚醒7～8回、覚醒後寝つき悪く1時間眠れない。

炭水化物量、間食量・頻度が増えると、胃もたれ、胃酸逆流症状出現。

治療直後全身倦怠感10段階中VAS7

・ X年11月発旬 23診目

中途覚醒は3～4回、覚醒時のイライラ、焦燥感、煩悶感は波がある。

油分が多い甘味は一口程度なら胃酸逆流しなくなる。

治療直後全身倦怠感10段階中VAS7～6

【治療経過③】

・ X年12月中旬 34診目

中途覚醒回数2～4回、覚醒後すぐに寝付けるようになる。

ベランダで読書を開始し、身体が冷えて翌日**風邪症状**が出現したため体温調節していただくよう伝える。

治療直後全身倦怠感10段階中VAS6

・ X+1年1月初旬 39診目

中途覚醒2～4回、熟睡感が上がる。

油物を1人前の半分を食べても、胃もたれ、悪心、胃酸逆流なし。

室内で行う運動療法を伝える。

治療直後全身倦怠感10段階中VAS7

【治療経過④】

・ X年2月中旬 42診目

中途覚醒回数1～3回、覚醒後寝つきよく熟睡感も良い。

息子の結婚式に参列。その後の倦怠感、眩暈、悪心等の症状出現
無し、不眠症状悪化無し。

治療直後全身倦怠感10段階中VAS5～6

・ X+1年3月初旬 50診目

2月後半頃より全身に皮膚掻痒出現。

寝付き時間1時間、中途覚醒3～6回、覚醒後は保冷剤で身体を
冷やし、痒みが治まると寝付ける。

治療直後全身倦怠感10段階中VAS5

【治療経過⑤】

・ X+1年3月中旬 55診目

皮膚掻痒緩解。

寝つきよく中途覚醒1～4回、覚醒後寝つき良く熟睡感も良い。

治療直後全身倦怠感10段階中VAS5

・ X+1年4月初旬 60診目

中途覚醒1～3回、完全覚醒することがなくなりウトウトしたまますぐ寝付く。熟睡感が上がる。

頸肩背部の緊張、起床時の倦怠感が軽減する。

治療直後全身倦怠感10段階中VAS3～4

【治療経過⑥】

(治療介入後～今回発表時点までの症状経過まとめ)

症状	治療介入前	10診目	60診目
入眠時間	約60～120分	約30分	約15分～30分
中途覚醒回数	6-7回	3-4回	1-3回
熟睡感	無し	あり	あり
歩行状態	伝い歩き	自立	自立
起床時の頸肩背部重さ	10段階中10	10段階中6	10段階中3～4
息切れ	10段階中10	10段階中1	10段階中1
胃酸逆流	10段階中10	10段階中2	10段階中1～2
悪心	10段階中10	10段階中2	10段階中1～2
咽の詰まり	10段階中10	10段階中1	10段階中0
尿勢・尿切れ	10段階中10	10段階中1	10段階中0

【治療経過⑦】 歩行状態比較動画

X+1年1月



X+1年4月



【考察】

・ 初診治療直後から良性の変化を実感、担当者間での連携治療により早期に関係構築ができたことから、経過中に様々な身体症状が出現した際にも、患者自身が情緒不安定にならずに現在まで安定的に治療継続できていると考える。

・ 患者の治療経過が安定している背景には、患者と主治医の信頼関係も関与していると考える。元来神経質な患者にとって、主治医の診察は患者の拠り所になり、結果として鍼灸治療の開始継続にも繋がっていることから症状改善の一助であると本症例から実感した。

【反省点】

・経過中に風邪症状や皮膚掻痒症状が出現し、主訴や精神状態に乱れは出なかったが、**時節、症状、生活状況**を常に考慮した上で**毎回の問診・治療**を行い、出現し得る症状を予測して事前に**養生指導**を行うことの重要性、必要性を痛感した。

👉養生指導、症状を未然に防ぐことは東洋医学の強みであり、患者との信頼関係が強固になる機会でもあると考えるため、より一層注意しながら治療に努めたい。

【医師とのコミュニケーション】

同意書の再同意時に患者の症状経過、現状を記載した依頼状を主治医宛てに郵送しているが、同意書のみでの返送で直接的なコミュニケーションは取れていない状況。

オンライン診療時に医師より、「**一度外来受診できそうですね。来られるときに来てください。**」と言われ、病院での評価基準ではPS4で改善がみられて嬉しい、鍼治療を受けてよかったとの報告を聞き、**西洋医学的診察、治療は患者が客観的に症状を把握できるものであり、また患者の鍼灸治療に対する信頼感へと繋がり、東西の医療における診察、治療の有効性、必要性を再認識した。**

【参考文献・論文】

文献：新型コロナウイルス感染症の罹患後症状

[新型コロナウイルス感染症の罹患後症状（いわゆる後遺症）に関するQ & A | 厚生労働省](#)

論文：

①COVID罹患直後に新規発症した不眠の症例シリーズ

[COVID-19に関連する新たな発症不眠症: 症例シリーズ](#)

②COVID-19パンデミック中の母親の不眠症：うつ病および不安との関連

[Maternal insomnia during the COVID-19 pandemic: associations with depression and anxiety - PMC](#)

[新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)パンデミック中の母親の不眠症:うつ病および不安との関連 - PMC](#)